

会 議 記 録 (1)

会議名称	令和6年度第3回北本市文化財保存活用地域計画策定協議会
開会及び 閉会時間	令和7年2月19日(水) 午前10時00分開会、午前12時20分閉会
開催場所	北本市役所 3階 会議室3-F
議長氏名	松本富雄
出席委員 (者)氏名	松本富雄、秋葉清、須田大樹(飯田徹代理)、小松政毅、堂本泰章、加藤祺 林田幸子、坂口修
欠席委員 (者)氏名	
説明者の 職 氏 名	教育部参事 磯野治司、教育部文化財保護課長 大平洋佑
事務局職員 氏 名	教育部参事 磯野治司、教育部文化財保護課長 大平洋佑
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 北本市文化財保存活用地域計画の作成案の検討について ・計画序～第4章の素案修正について ・計画第5～7章の素案について ・計画第8、9章の素案作成について 4 その他 5 閉 会

会 議 記 録 (2)

配布資料	資料 1 北本市文化財保存活用地域計画作成案(R 7. 2. 1 0 時点) 資料 2－1 北本市文化財保存活用地域計画第 8 章・第 9 章素案 資料 2－2 関連文化財群と保存活用区域 (図 8 2)
------	--

会 議 記 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容・決 定 事 項
	司会進行 教育部文化財保護課長 大平 洋佑 1 開 会 教育部文化財保護課長 大平 洋佑 2 あいさつ 松本会長からあいさつ 3 議題 (1) 計画序章～第4章の素案修正について
事務局(大平)	資料1のうち、第4章まで、素案修正を行ったため、改めて御確認いただきたい旨説明。
小松委員	第5章で小学生の地域の宝物調べに触れられている。北本カレーや北本まつりがあがっているが、第1章の北本市の概要では触れられていない。子供たちのアンケートで出てくるので他の項目で触れるべきではないか。
事務局(磯野)	21 ページに新しい試みとして北本トマトカレーが盛り上がっているということを入れたい。また、第8章で「おまつり」を取り上げる予定で、北本まつりについても詳述する予定。
松本会長	トマトや北本まつりは直接的な意味で文化財ではないが、子どもたちの心風景として根付いている。文化財の普及啓発にもつながってくると思うので、宝物探しで上がってくるものは入れていくべきだと思う。
堂本委員	序章の「地域計画について」だが、施策として「緑の基本計画」があるはず。緑資源として、文化財が「緑の基本計画」の中に位置づけられている。施策として取り上げているのなら、触れるべきではないか。
事務局(磯野)	抜けていた。追記する。
須田委員	7 ページあたりに県の大綱への言及をお願いしたい。
坂口委員	現在、第6次総合振興計画の策定過程にあるので、策定でき次第、反映させていく必要がある。

会 議 記 録 (4)

事務局(磯野)	認定の時期には第 6 次総合振興計画として記載することになると思う。
須田委員	第 3 章の歴史文化の特性のところで、8 つのテーマ (32 ページ～) と、第 8 章では順番が違っているが、これはどういう意図か。
事務局(磯野)	ご指摘の通りで、8 つの内容は変わっていないが、記述の順番は変わっている。保存活用区域の記述にあたってまとまりのよい順番にしたほうがよいだろうということになった。
須田委員	修正したものの方が良い並びのように感じる。
松本会長	よりメリハリのある並びに整えていただきたい。
須田委員	今日見せていただいた図のようなものが第 3 章でもあれば、まとまりがあってわかりやすいと思う。後は歴史文化の特性のところで、台地と谷津、街道と川の交流という言葉が 32 ページで初めて出てきたが、それが最後の関連文化財群につながるのだと思うが、もう少し目立つようにしたほうが良いと思う。
松本会長	文字列が主体のなかで強調する部分を、レイアウト含めて工夫いただきたい。この地域計画は普及版・ダイジェスト版の作成もあるのか。
事務局(大平)	概要版の作成は予定している。協議会でも事前にご確認いただく予定である。
松本会長	ダイジェスト版にする際もうまく意見を取り入れていただければと思う。
事務局(大平)	来年度の 9 月前後にパブリックコメントを実施する予定。その際に事前に概要版をお見せしてご意見をいただきたいと思う。来年度の第 2 回の会議でお見せできればと考えている。
松本会長	策定が終了するまでに、内容に関する説明会などを開催する予定はあるか。
事務局(大平)	そこまでの予定はない。地域計画の情報発信を目的の一つとして 2025 年 1 月にワークショップを実施しようとしたが、応募者が少なく、開催を断念した経緯がある。意見を計画へ組み込むのは難しくなるが、情報発信という大きな目的もあるため、4 月に再度、今度は文化財めぐりツアーを組み込み、参加していただきやすいイベントとして、仕切り直しを考えている。
松本会長	やることに意味があるというご意見があったが、普段、文化財はどうしても生

	活から切り離されている。なるべく文化財を活用したワークショップを多くやっていく必要があると思う。どうしても身近な問題にはならないと思うが、文化財がより近しい存在になるような努力をお願いしたい。計画を立てながら、計画の大きな目標の一つとして、より市民に文化財を理解してもらう作業をやっているということを盛り込んでいく必要がある。日程が決まればご教示いただきたい。
事務局(大平)	現時点では 4 月 16 日の午前中に魅力再発見ツアーのような文化財をめぐるようなワークショップを予定している。その翌週(4月23日)にワークショップを企画している。
加藤委員	総じて文化財のイベントはマニアックすぎると思う。もう少し軽いタッチで周知していく方がいいと感じる。
松本会長	今、加藤委員がご指摘された件で 4 月 16 日のツアーを皆にわかりやすいような、魅力的な形で、宣伝活動も含めてやっていただければ、ワークショップもより魅力を感じてもらえる可能性がある。地域の人たちからの意見を聞くという意味では、郷土芸能大会でのアンケート等について、計画の中への反映、利用を考えているか。
加藤委員	毎年、郷土芸能大会を開催しているが、やらないとみんな忘れてしまう。来るのが少人数でも継続開催が必要と感じている。主催者としては太鼓を見てもらいたのだが、受け手はそれに付随する滑稽なものなどに注目している。
松本会長	まさに受け手がどういう視点で見ているのか、そこをどういう風に発展させていくのかということを考える必要がある。
事務局(磯野)	郷土芸能アンケートについては、かなり丁寧な回答が多く、今後活かしていくつもりである。ワークショップについては、加藤委員のご指摘の通りで、1月には文化財保存活用地域計画に参加してみましようというような内容で集まらなかった。それをもう少し関心を寄せてもらえるよう、野外活動センターを中心にした周遊メニューを入れて、参加を促進したい。
松本会長	参加するだけでなく、地域の人と話をしていただければと思う。郷土芸能大会の継続というのも文化財の啓発という面では重要であると思う。郷土芸能をより活かせるような、継続できるような参加型のものというのは文化財の啓発につながる部分があると思う。郷土芸能のあり方を参考にして意見をまとめておいていただきたいと思う。

事務局(大平)	(2) 計画第5～7章の素案について。 資料1のうち、第5章から第7章について素案作成を進めたため、今回新たに確認をお願いしたい旨説明。
事務局(磯野)	第5章の将来像については、前回、もっと危機感を持った内容にというご指摘があったが、ご提案いただいたスローガンをそのまま入れるのは難しいと判断し、こういった文言でご提案させていただく。
松本会長	まず各章ごとに皆さんのご意見があれば伺いたい。一つはどう将来像を設定するかというところで、「緑とともに歴史文化を守り伝える里山のまち 北本」ということで設定するというのがこの第5章の中の大きなポイントとなっている。これはアンケート等を参考にして設定されたと思うが、このテーマを設定したところを意見としてお聞きしたほうがいいかなと思うがどうか。
加藤委員	東の地域がおろそかになっている印象はある。緑が少なくなって「ヤマ」がなくなり、歴史文化に対応しているものが少ない、あっても活かされているところが少ないと思う。取り上げるべき文化財が少なくなっている。
松本会長	文化財に限った話ではなくて、屋敷林の消失による環境の悪化をどうしていくかを提案できるか。
堂本委員	雑木林は保全という以前に「再生」が必要な現状になっている。それを計画にいけないとおかしいのではないか。文化財というが違うが、里山文化の再生という点では非常に厳しい状況になっている。
松本会長	里山・畑の景観も人が暮らしてきた痕跡、大きく括れば文化遺産。そういうところを意識して、生活の知恵としての屋敷林、それを活かしたかつての暮らしの在り様、地縁というものを将来に活かさないか、という視点が、コラムなどでもいいので記載されるといいのではないか。
事務局(磯野)	なくなっていく一方なので、里山のまちと言えない現状であることは認識している。提案はしていきたい。
松本会長	里山の再生、あるいは現状維持への提言はしてもらいたい。ところで、「里山」という言葉への理解、共通認識はどうなのか確認したい。広辞苑では「里山」という言葉は第四版で初めて出てくる。「里」とは何かという定義をした方がいいと感じる。江戸時代の史料では、林制史の用語として出てくる。森林のある奥山に対して里山は人の暮らしを支える身近なヤマという認識。地域によって

	違いはあるだろうけども、我々にとっての里山とは何かを定義する必要があると思うがどうか。
須田委員	里山の定義を示すことについては、同様のことを考えていた。「里山」をどういう風に使っているのかということはどこかに入れたほうがいいと思う。今、委員長からも話があったが、人が手を入れないで残ってきたということよりも、人が関与することで残されてきた。緑が身近にあって手を入れることは悪ではないということを示したほうがいいと思う。
堂本委員	今、話があったが、林に手を付ける、付けないということに関して、拡大解釈する人がいるので、そこは注意したほうがいいと思う。
事務局(磯野)	里山の定義としては、狭義では薪炭林、広義では林に限らず、資源循環のくらしによって形成されてきた里地を含めた農的な環境と考えているがよろしいか。
松本会長	それでいいと思う。
小松委員	里山景観がどんどん失われていることが最大の課題として挙げられる。保存活用に関する課題としては、里山景観が失われていること。保存活用の方針で土地開発に制限をかけるという提言ができるかどうか気がなる。
松本会長	この計画がどういったスタンスにあるかを示す重要なポイントだと思う。生態系の件は入れているが、それだけでなく里山自体を人とのかかわりも踏まえてどう入れていくかというのが重要。
須田委員	先ほど第5章で出てきた里山の喪失とか、檜枯れの問題なども歴史文化の課題としてあげられるので、ここで入れていくのが一番いいのかなと思う。生態系は入れているが、それだけでなく里山も人との関わりも踏まえて入れていくのがいいと思う。
事務局(磯野)	意識はしているが、中々上手く組み込めていなかった。ご指摘を必ず組み込めるように、改めたい。制限というところまでは難しいかもしれないが、市の方針で里山条例を策定する考えはあるので、そこで促せるように試みたい。
松本会長	総合振興計画のほうにも同じように盛り込んでいかないといけないと思う。

秋葉副会長	里山というと森の中の遊び場という感覚もある。雑木林を個人が管理するには限界がある。そういう中で総合振興計画にどう盛り込んでいくかを考えないといけないと思う。
堂本委員	私も委員として、里山の保全を念頭に置いている。ただ、市民の中には開発への幻想がまだあるのも事実で、そういう考えに対する啓発になる計画になるといい。それから、市役所職員の文化財や自然に対する思いの低さを感じるので、その指摘もあっていいと思う。
松本会長	精神的な部分として、10 年先を見越した理念を示してもらいたい。
事務局(磯野)	市民の生活を豊かにするためにこの計画を作っているの、ご指摘いただいた点をより取り入れていきたい。
松本会長	計画全体を見ても、あまり十分でない、できていない、と書きすぎではないか。課題を書いていく必要があるため、その必要があるということは理解するが、これまで市として取り組んできたことについては、自信を持った書き方でもいいと感じる。
事務局(磯野)	ありがたいご意見であり、見直したい。またご意見をいただきたい。
須田委員	将来像や方向性については記載があるが、その間に現状について書いた方がいいと思う。今までこれだけやってきた部分もあるが、この部分が不足しているといった整理、書き方にすると、将来像に向けて課題があるというのが明確になると思う。
小松委員	現状の整理というところで、郷土芸能大会が 26 回も続いてきたのは、北本だけではないか。そういう守り育ててきたところを強調するのもいいと思う。
松本会長	郷土芸能大会などを見ていて思ったのは、事務局はサジェスチョンしてくれているが、ほとんどメンバーは郷土芸能の人達。ここまで自立出来ていて、なおかつ子供たちを動員できているのは凄いと思う。そういうのは評価の対象になると思う。
加藤委員	みんな高齢で、存続に危機感を持っていることは確かである。そこに小学生が入って来ているので、良い刺激になっている。

松本会長	郷土芸能を伝えたいという人の焦りや思いを汲み取ってこれまで頑張ってきたことをアピールしていけばいいと思う。
事務局(磯野)	(3) 計画第8、9章の素案作成について 資料2に基づき、素案第8、9章について説明。
松本会長	ご説明いただいた各章について、持ち帰っていただき、事務局の方にご意見をお寄せいただきたい。それを踏まえて次回の協議会で意見として報告いただきたいと思う。
堂本委員	意見はいつまでに寄せればいいのか。
事務局(大平)	4月に文化庁との協議があるので、その前までには意見を集約したい。3月上旬までにはお願いしたい。
松本会長	この計画を実施していくにあたって、今の職員体制で足りるのか、少し不安を感じる。
事務局(磯野)	職員体制が足りていないのは確かである。増員は働きかけるつもりだが、他課との連携で補うことも考えている。
松本会長	我々が今後盛り込んでいかないといけないのは、行政主体で動くことと、自主参加型の市民を育てていけるような取組みを考えていくことである。そのあたりを、展望も含め、計画に盛り込んでいく必要もあると思う。
事務局(大平)	市民と一緒に遂行していくことも計画の中では少し触れている。4月のワークショップでもそういう雰囲気づくりをするとともに、今後の可能性について探っていきたい。
松本会長	集団として雰囲気作りをしていくことも重要だと思う。
須田委員	73ページの措置の一覧表で思ったが、行政としての措置はかなり充実していると思う。第7章に現状の諸団体、例えばNPO、企業等の取組みをリストアップしておくのもいいかと考える。
松本会長	確かに一市民団体だけではなくて、企業やNPOなども興味を持っていただけるような取組みも含めて入れていく必要があると思う。

小松委員	地域計画に対しての市議会等の議決は必要になるのか。
事務局(大平)	計画策定自体には議決は不要だが、パブリックコメントの前には協議会や議会で計画の説明はする必要がある。
松本会長	秋にパブコメをやりたいのであれば、それまでにまとめたものを理解していただくような形をとっておく必要はある。それと、市民の側へパブコメは形骸化、ただ広めたというだけの場合が多い。工夫をお願いしたい。
加藤委員	それをすると、ますます人が足りなくなると思う。やはり文化財保護課の人員不足は根本的な問題としてあると感じる。そこの充実が必要。文化財に関しては専門職にやってもらった方が安心感はある。
松本会長	計画を実行するための体制づくりについては、首座に置いた方がいいと考えている。我々委員も関わっている以上、声を上げていくべきだと思う。
事務局(大平)	5 その他 事務局による次回会議開催日程、及び未指定の文化財に関する調査（石造物、歴史的建造物などが対象）を実施する旨連絡。 6 閉 会 秋葉副会長から閉会の言葉 事務局により閉会

議事の内容・概要を記載し、その相違なきを証するために署名する。

令和 7 年 3 月 21 日

松 本 富 雄